

常なる磐

つねなる いわ

令和2年12月21日(月)

◇ 登校時の持ち物 検討中 その②

児童の登校時の持ち物の検討に向け、現在、学校は、様々な形で動いている。

- ①職員会議での校長からの指針発表
- ② ①を受けての現状把握（現在の各担任の取組）
- ③ ①を受けての担任の考えの集約
- ④児童の実態調査 ※ランドセル重量の実測
（持ち物の総重量ではなく、ランドセルのみ）
- ⑤保護者会を利用しての保護者の考えの収集
- ⑥ ②から⑤を受けての生活指導担当による起案

現状はここまで。

今後は、⑦起案の検討

- ⑧教員の共通理解を図るための決議会議
- ⑨実施準備 ※保護者への通知等
- ⑩全校集会での児童への運用発表・注意点の説明
- ⑪児童の自治意識の涵養 ※随時
- ⑫テストケース開始＋⑪
- ⑬実施の見直し・改善案＋⑪育成のための方策

できれば、テストケースは3学期の頭で開始し、3学期の間でテストケースを見直し、改善を図りながら、来年度から本実施を行う計画である。

課題は⑪だ。

随時指導が重要である。常時「特別の教科 道徳」の授業を行うようなものだ。正直言って、担任からしてみれば大変であろう。相手は大人ではない。中学生でもない。小学生である。しかも、児童は発達段階が幾段（※学年＝発達段階ではないと考える）もあり、その段階に応じた手立て、さらには個に応じた手立てが必要となる。

しかし、自分が実施を決断したのは、2つ理由がある。

④児童の素養

- ・素直で真面目。
 - ・担任（教員）の言うことをしっかり聞き、実行しようとする。
 - ・「ダメなものはダメ」「ならぬものはならぬ」認識がある。
- こうしたプラスの素養を児童が備えている。素晴らしいことだ。

これは、家庭教育がしっかり、地道になされている証といえる。加えて、これまでの学校生活における児童相互の自浄効果、そして、担任陣の指導の成果といえよう。

★素養が備わっているからこそ、一段高い「自治も可能」である。

⑧実施時期

4月から数えること8か月。担任は児童と向き合うことで、信頼関係を構築してきた。この関係は大きい。同じ担任の話でも、4月や5月、6月と今とでは、児童の受け止め方が違う。

★「この時期だから、やれる」と考えた。

よくよく考えれば、時間と手間はかかるかもしれないが、登校時の持ち物の見直し（置き用具の検討）を図ることで、児童の生きる力となる【道徳心の涵養】という大きな副産物を養うことが期待できる。

「時間割を見ながら、自分で考えて用具をそろえる」などのことは少なくなるかもしれないが、保護者の皆様には、是非、学校の取組にご理解いただきたい。

ただし、学校としては一律には方法を設定せず、【柔軟なもの】【工夫できるもの】を考えている。さらに、【児童の発達段階に応じた対応】が重要であると考える。

例えば、1・2年生ならば、【担任が学校に置いていくものと家に持ち帰るものを細かく指示を与え、その指示に沿って対応できる】ようにする。

これは、【伝え聞いたことや文字で明示されたことを自分で確認する】という重要な行程を経る。当然、担任も確認は行う。すぐに児童ができることは担任も期待していない。児童が、助けを借りずとも、自分で、一人でできるようになることをねらいとしている。

一方、5・6年生ならば、【学校に置いていくものと家に持ち帰るものを自分で判断して対応する】。

したがって、全員が同じにならず、学校に置いていくものと家に持ち帰るものが、個々で異なる場合も生じてくる。

家庭学習に必要なものを自分で判断する。毎日持ち帰ってもよいし、日ごとに異なってもよい。図画工作の材料の準備のために必要であると思えば、教科書を持ち帰るなどのように自分で決める。

ねらいとするもの、児童が身に付ける力は【自分で考えて、判断する力】だ。失敗があれば、当然指導も受ける。失敗が経験になればいいのである。